

熊本県立河浦高等学校 平成28年度学校評価表

1 学校教育目標						
「地域や保護者に信頼され、生徒や職員が誇りに思う学校づくりを目指す」(1)生徒が河浦高校に来て良かった。保護者が河浦高校にやってくれた。職員が河浦高校に勤めて良かった。地域から河浦高校があつて良かった。そう思ってもらえる学校づくりを目指す。(2)校訓「創造」至誠「勤勉」をしっかり身につけさせ、生きる力の育成と社会に貢献できる有為な人材の育成を目指す。(3)生徒一人ひとりに確かな学力と夢と希望を育ませ、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実を目指す。(4)人権尊重の精神に立ち、自他の生命や人と人との絆を大切に、一人ひとりが輝き、楽しい学校づくりを目指す。(5)教職員としての資質や専門性の向上を目指す。						
2 本年度の重点目標						
1 校訓及び教育目標を柱とする教育の推進 2 基礎学力向上を目指す指導の徹底(Just Do It)～なんさんやる～ 3 生徒指導の充実(凡時徹底) 4 進路指導の充実「ここで決ま！伝説始動」 5 人権教育・特別支援教育の推進「学びあい」支え合い全員達成 6 部活動の活性化 7 環境教育・道徳教育の推進 8 農業教育・家庭教育・福祉教育の推進						
3 自己評価総括表 ※表中の「評価の観点」の項目記載下の()は関係する各部。評価とコメント(成果と課題)の記入をお願いします。						
評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題	
学校経営	危機管理体制の強化	交通事故防止の取組(生徒指導部)	・生徒、職員の交通事故0、交通違反0を目指す。 ・地域の警察、安全協会と協力して各学期1回以上の実技講習会実施 ・職員の資質・指導力向上	・年に3回の原付及び自転車安全点検を実施する。 ・原付免許取得者には交通安全協会、自動車学校、警察と協力し、実技講習会を行なう。 ・外部講師を招聘し、交通安全講話を実施する ・職員を対象とした研修会、講話の実施。	A	安全点検では全生徒整備不良者ゼロ達成。交通事故・違反者もゼロ達成。実技講習会は過年度実施しているため、牛深警察署による講話のみを行い、意識の向上を図れた。
		学校事故発生時の的確な対応(生徒指導部、保健部)	・学校事故0を目指す。 ・職員の的確な判断、対応力向上	・危機管理マニュアルの点検と心肺蘇生法の訓練を1回以上実施する。 ・防犯講話を1回以上実施する。 ・緊急連絡網(職員間、保護者への)の確認と生徒、保護者への緊急連絡の徹底と訓練を行なう。	A	職員研修として、心肺蘇生法の訓練を行った。また、アレルギー対応について、危機管理マニュアルに追加作成を行った。 ・交通安全や防犯等に関する講話を5月、7月の2回行った。
	職員の資質向上	校内職員研修の充実(教務部、関係部署)	・本校の8つの重点目標の達成に向けて、各部と協力して各学期2回以上の職員研修を実施し、資質向上に努める。	・講師招聘等による研修内容の充実。 ・校外研修の復講を呼びかけ、情報の共有を図る。 ・自主的な課題設定を行う。	A	昨年と比べて校内研修の内容を精選し、1年を通して充実した研修が実施された。校外で行われる研修については、各担当で重要だと思われる資料をコピーするなどして職員で共有した。
		教材研究と指導法(教務部)	・研究授業の全員実施 ・年に2回授業アンケートを実施	・研究授業等予定の迫っている職員に声かけを行う。 ・アンケート結果を数値化し、授業改善に役立てる。	A	研究授業の全員実施を達成することができた。授業自己評価アンケートに関しては、数値での評価のみならず自由記述欄を設け、生徒の声を授業に反映しやすくなった。先生方が生徒とともに検定試験に挑戦するなど、生徒・職員間で互いに高め合う雰囲気を作ることができた。
地域に開かれた特色ある学校づくり	公開授業の充実(教務部)	・参観者の人数を30人に増やす。	・地域や近隣中学校への呼びかけを強化する。	C	ホームページ、フェイスブック、有線放送等での案内を強化し、期間中に外部講師を招いての講演や特別授業を計画したが、目標とする参観者数には及ばなかった。校内においては職員同士で授業を積極的に参観し合い意見を交わすことができた。	
		学校行事への保護者参加(総務部)	・校友会総会の出席率を70%に上げる。 ・体育大会や文化祭等の保護者の参加率を70%に上げる。 ・文化祭における保護者のバザー参加を充実させる。 ・ロードレース大会等における保護者の支援を企画する。	・総会、学年会等のほかに授業参観を実施する。 ・土曜又は日曜に実施する。 ・学校行事の1ヶ月前には案内文を送付する。 ・文化祭で保護者によるリサイクルバザーと「がなあげ」の調理及び販売を実施する。 ・ロードレース大会の時に保護者による「豚汁」の炊き出しを実施する。	A	・本年度は5月日曜開催で、校友会総会の出席率が67.7%で前年度より出席率は増えた(出席率 27年度:61.8%)。 ・総会前に親子観音ソフトバレー大会を開催することができ、大いに盛り上がった。 ・体育祭と文化祭には多くの保護者の参加・協力をいただき(体育祭は93%、文化祭は88%の参加率)、学校行事を支援することができた。バザーも盛況し、合唱にも積極的に参加していただいた。 ・ロードレース大会の炊き出しでは、豚汁・おにぎり・フルーツポンチを提供した。
	広報活動の充実(総務部)	・「学校ホームページ」を週に少なくとも2回以上更新する。 ・「河高だより」10号発行を目指す。	・担当者複数決めて更新の回数を増やす。 ・小さな行事でも写真や記事を作成し発行回数を増やす	A	・ホームページの最新のニュースについては、週2日のペースで更新した。昨年度より写真の掲載数を増やした。 ・河高だよりは毎月発行できた。	
学力向上	基礎学力の向上(教務部、進路指導部)	・高校生として必要な基礎学力を身につけさせる。	・高校総体後放課後の時間を使って学年部で進路別の学力向上講座を実施する。	A	授業の中での基礎基本の学び直し、放課後の進路別の学力向上講座により、それぞれの生徒に見合った学習指導ができ、基礎学力の向上につながった。	
		読書活動の推進(教務部 図書)	・生徒1人あたりの図書貸出し数を20冊に増やし、読書で天草一を目指す。	・「朝の読書」に取り組むとともに、図書館ホームルームを行い、生徒にとって図書館を身近なものとし、また、スタンブラリー等企画を通して本との出会いをサポートする。	A	「朝の読書」を定期的かつ効果的に行うことができた。図書館HJRを行ったことで、読書の時間中に他の作業をしている生徒や、本を持っていない生徒が0になり、より充実した読書の時間が確保できている。生徒の読本に関しては、レファレンスや広報により、個人の趣味や関心にあった本を紹介できた。また、定期的に図書館利用の機会が増えたため、休み時間等の図書館利用者数が増加した。
	授業時間の確保と充実(教務部)	・授業を充実させる。 ・教科毎の授業時数をバランスよく確保する。	・公開授業週間や研究授業により指導法の向上を図る。 ・曜日調整を行う。 ・出張、年休等を事前に調べ、教務部で毎週の時間割を作成する。	A	研究授業の全員実施を達成することができ、各研究授業を参観する世教師も昨年より増えた。出張、年休等を事前に調査し、教務部で毎週の時間割を作成することにより、自習の時間を大幅に減らすことができた。	
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	自己実現のための取組(進路指導部)	・自己の適性に合った進路実現	・面談を充実させ、適切なアドバイスを行う。	A	生徒や保護者に対して、担任を中心に学年団、教科、キャリアサポーター等複数の視点から面談を行うことができた。教員間の意見交換もスムーズである。
		体験活動の充実(進路指導部)	・キャリア体験活動、応募前職場見学等体験型の活動を積極的に紹介し、5名以上の参加実績を作る。	・各機関からの体験、見学等案内を適宜学年部に紹介し、希望生徒への呼びかけや支援を図る。 ・就職支援としてキャリアサポーターとの面談を行い、見学可能事業所等を紹介する。	A	高校生の一日看護体験及び応募前職場見学に延べ10名以上の生徒が参加した。その他進路志望の生徒にも、進学する分野に関する情報提供や活動参加の呼びかけをすることができた。
	進路希望の達成	進路別説明会の充実(進路指導部)	・生徒の将来に役立つ職業講話を年に1回実施する。	・単なる職業の話にとどまらず、講師と相談の上生徒の将来にわたる生き方の参考となるような講話を計画する。	A	学年部の要望や生徒の状況に合わせた魅力ある講話を開催することができた。就業教育支援事業等との連携により充実した内容で実施することができた。
		個別指導の充実(進路指導部)	・授業や課外授業以外にも学習館特別講座や個別指導を行う。 ・特別講座年間参加者50名(延べ数)を目指す。	・担任・進路指導部・教科担当者と連携し、生徒の進路達成のために、それぞれのレベルにあった指導を行う。	B	本校の進路指導の特徴ともいえる個別添削を中心とした課外授業や特別講座については全ての生徒に門戸を開き、生徒の学習意欲の喚起や日頃の学習方法の見直しをする機会とすることができた。

熊本県立河浦高等学校 平成28年度学校評価表

1 学校教育目標						
「地域や保護者に信頼され、生徒や職員が誇りに思う学校づくりを目指す」(1)生徒が河浦高校に来て良かった。保護者が河浦高校にやってくれた。職員が河浦高校に勤めて良かった。地域から河浦高校があつて良かった。そう思ってもらえる学校づくりを目指す。(2)校訓「創造」「室積」「勤励」をしっかりと身に付け、生きる力の育成と社会に貢献できる有為な人材の育成を目指す。(3)生徒一人ひとりに確かな学力と夢と希望を育ませ、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実を目指す。(4)人権尊重の精神に立ち、自他の生命や人と人との絆を大切に、一人ひとりが輝き、楽しい学校づくりを目指す。(5)教職員としての資質や専門性の向上を目指す。						
2 本年目の重点目標						
1 校訓及び教育目標を柱とする教育の推進 2 基礎学力向上を目指す指導の徹底(Just Do It)～なんさんやん～ 3 生徒指導の充実(「凡時徹底」) 4 進路指導の充実「ここで決べ！伝説始動」 5 人権教育・特別支援教育の推進「学びあい支え合い全員達成」 6 部活動の活性化 7 環境教育・道徳教育の推進 8 農業教育・家庭教育・福祉教育の推進						
3 自己評価総括表 ※表中の「評価の観点」の項目記載下の()は関係する各部。評価とコメント(成果と課題)の記入をお願いします。						
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	・時間を守らせる ・挨拶・礼儀指導 ・服装指導 (生徒指導部)	・年間を通しての登校指導を実施する(遅刻0目標)。 ・服装検査を実施する(朝掃除0目標)。 ・あいさつの励行。 ・授業環境の充実。 ・部活動の活性化。	・正当な理由のない遅刻者に対し、遅刻指導を行う。 ・生徒会による挨拶運動を実施し、生徒が主体的に挨拶をできる雰囲気をつくる。 ・定期的な服装検査に加えて、進路部からの指導や学年毎の指導を重視する。 ・授業に真剣に取り組むことのできる雰囲気作りをする。 ・部活動や同好会などの授業以外の活動を通して、基本的習慣の確立を図る。	A	遅刻常習者ゼロ達成。整容検査での違反者ゼロ達成。部活動、同好会も最後まで主体的な活動ができた。あいさつも地域の方々から褒めていただいた。
	交通道德の定着	・事故に遭わない原付、自転車の乗り方指導 ・地域の模範となる交通マナーを身につける (生徒指導部)	・登校時定時指導の実施(交通違反0目標) ・交通安全教室、講演の実施(年2回以上) ・二重ロックの徹底 ・危険予測学習の実施	・定期的に定時指導を実施し安全運転を意識させる。 ・生徒会で外部講師を検討し、印象深い交通安全講話になるよう努める。 ・登校指導時に鍵かけ点検を行い、二重ロックを徹底する。 ・危険予測学習を行い、交通安全意識を育てる。	A	昨年度は路面凍結による転倒が4件発生したが、今年度は自転車・原付による大きな事故はゼロ。二重ロック点検においては定着が見られ、毎月100パーセントの達成率を達成している。講話についても外部講師(牛深警察署)の協力や、県の交通安全指導者講習会の復興講習を行った。
	美化意識の向上	・掃除指導の充実 ・汚さない、散らかさない ・教育環境づくり (生徒指導部)	・掃除に一生懸命に取り組ませる。 ・教室の整理整頓に心掛けさせる。 ・ボランティア活動への取組み。	・毎日の掃除を教師が生徒と共にやり、美化意識の向上を図る。 ・年三回の美化コンクールを実施し、クラス毎の競い合いと助け合いから美化意識の向上を図る。 ・年間3回の全校ボランティアを実施する。	A	掃除に関しては少ない人数ながら、全生徒持ち場で時間いっぱい担当職員の指導の下掃除を行っている。ボランティア活動等においては高い意識の下、積極的に活動に励むことができた。
人権教育の推進	人権教育の向上と人権教育の充実	・人権意識を高める取組の充実 ・HR等での人権教育の充実 ・命を大切にすることを育む指導(人権教育)	・研修会等への積極的参加 ・心のアンケートや面談の実施 ・より生徒主体で行う人権教育LHR	・職員や生徒対象の各種研修会への積極的参加の呼びかけを行う。 ・心のアンケートや面談を実施し、生徒理解を深め外部専門家の助言も受けて問題の早期解決に努める。 ・人権教育LHRの実施がより効果的であるように、生徒がより主体的に活動できる授業展開を行う。	B	・生徒・職員ともに積極的に研修の案内や広報等の配布を行った。 ・心のアンケートを学期ごとに実施し、生徒の現状の把握を積極的にに行った。 ・全校生徒に様々な人権問題に意識を向けようという目的で、夏休みの課題に幅広い人権問題のテキストを配布し、この資料を元に人権講話作成を行った。 ・人権校内研修を学期ごとに行い、職員間の一層の交流と知識や経験の共有、人権感覚の深化が図られた。
	命を大切にすることを育む指導	・命を大切にすることを育む授業の充実 ・命を大切にすることを育む講話、講習の充実 (保健部)	・社会問題の中の生と死等について学習を深め、命を大切にすることを育むことができる。 ・夢や目標、人のために役立つこと、尽くすことについて学習を深め、命を大切にすることを育むことができる。	・思春期保健教育講話の実施。 ・食育教育の実施。 ・心肺蘇生法講習会の実施。 ・災害ボランティア養成講座の実施。 ・薬物乱用防止講話の実施。	B	各種講話、講演をほぼ予定通り実施することができた。専門的な立場から生徒の心に響く話をしていただき、生徒たちが命の大切さを改めて感じることができた。また、園芸科や家庭科の授業、学年での総合学習において、パラエティに富んだ充実した食育教育を実施できた。
いじめの防止等	いじめの未然防止や早期発見の取組の充実	・いじめ問題対策委員会の設置 ・いじめの未然防止・早期発見のための講話や面談等の充実 (いじめ問答委)	・アンケート等を通じて、早期にいじめの発見に努める。 ・面談等を通じて、個別の対応やいじめであるかの判断を行う。 ・保護者や関係機関と連携し、対応にあたる。 ・解決・報告・継続観察を心がける。	・いじめ未然防止講話等の実施(未然防止につながる情報の伝達) ・生徒からのいじめ防止の提言 ・いじめ防止等の対策のための組織会議の実施 ・心のアンケートの各学期実施 ・二者面談の実施	B	・学期ごとに心のアンケートを実施した。また、現状の把握と対応について、スクールソーシャルワーカーに助言いただいた。 ・いじめの案件はあったが、すみやかな対応で早期に解決された。 ・毎月の生徒朝会で生徒同士が交流できる企画がなされた。
特別支援教育	特別な支援を必要とする生徒への柔軟な対応	・支援を必要とする生徒に気づく ・ユニバーサルデザインの視点に基づいた授業を実現する (特別支援委)	・特別な支援を必要としている生徒に職員が気づく。 ・どの生徒にも分かりやすい授業を作る	・特別な支援を必要としている生徒について気づき、情報を全職員で共有し、支援につなげる。 ・ケース会議や専門機関との連携をとりながら、支援のあり方を検討する。 ・個別の教育支援計画の引き継ぎの準備を行う。 ・一人ひとりの進路実現に向けた指導を行う。 ・ユニバーサルデザインの視点に基づいた授業を実現するため、アクティブラーニング型授業や協同学習の形態やICTを活用した授業の展開の仕方を提案する。(困難な状況を作らない) ・特別支援教育に関する理解・啓発をすすめるため通信を折に触れ発行する。(気づきを促す)	B	・職員で実践している手立てを共有できた。 ・人権校内研修において、KP法や職員の交流をすすめる展開を行った(授業展開の提案)。 ・担任・キャリアサポーターを中心に進路決定のサポートが行われた。 ・移行支援を行う有無について、本人・保護者に確認を行った。 ・スクールカウンセラーの来校日を載せた特別支援に関する理解・啓発をすすめるための広報紙を毎月発行できた。 ・この広報紙や地区の推進協議会発行の通信を度々見て自分の子どもに対する気づきが出てきた保護者もいた。
特別活動・部活動	生徒会(学友会)活動	主体的な学友会活動の推進 (生徒指導部 生徒会)	・生徒朝会の充実(委員会の発表)。 ・学校行事における学友会の主体的な参加及び企画。 ・生徒委員会の充実。	・生徒朝会を毎月1回、月初めに行う。 ・学友会長を中心に役割分担をし、学友会全体で行事に参加する。 ・生徒委員会を適宜開催する。	A	生徒朝会、文化祭、学友会行事など、進路が大変な中、昨年度同様、主体的な生徒委員会活動を実施することができた。また、それを全生徒がバックアップする姿に感動すら覚えた。
	部活動(運動部、文化部、農業クラブ、家庭クラブ)の活性化	・九州・全国大会への出場を目指す (生徒指導部)	・部活動、同好会加入率90%を目指す ・年間を通しての部員加入を行う。 ・活動計画を明確にする。 ・事故等の起きない活動を行う。	・顧問を適材適所に配置する。 ・近隣の中学校等の合同練習を行い、中高の連携を図る。 ・校内合宿を実施し、競技力の向上と仲間意識を高める。 ・生徒の体調管理や練習内容をこまめにチェックする。	A	部活動・同好会加入率100%を達成。その結果、新体力テスト等の大幅な伸びや取り組みを評価され、体力向上優良校最優秀賞を県からいただいた。また、全国大会への出場は実現できなかったが、県大会での勝利や、県大会個人8位入賞(のべ数6種目)、九州大会出場など素晴らしい成績をおさめた。